立教大学学術推進特別重点資金（立教ＳＦＲ）
大学院生研究
２０１４年度研究成果報告書

研究科名	立教大学大学院　文学　研究科　ドイツ文学　専攻		
研究代表者（2015年3月現在のものを記入）	在籍研究科・専攻・学年	氏　名	
	文学研究科ドイツ文学専攻 博士課程前期課程２年	宮島　章子　印	
指導教員	所属･職名	氏　名	
	立教大学文学部・教授	井出　万秀　印	
自然・人文・社会の別	自然　・　[人文]　・　社会	**個人・共同の別**	[個人]　・　共同　名
研究課題	スイスドイツ語の歴史的推移 ――言語地理学的な視点から見るスイス聖書と方言辞典――		
研究組織（2015年3月現在のものを記入）	在籍研究科・専攻・学年	氏　名	
研究期間	２０１４　年度		
研究経費	（支出金額）　２００,０００円　／　（採択金額）　２００,０００千円		

研究の概要（200～300字で記入、図･グラフ等は使用しないこと。）

本研究の概要は，次の3点に集約される。1）スイスで最も古い包括的な方言辞典であるシュタルダー編スイス方言辞典（1806，1812年）の序文分析を行うことにより，方言辞典の成立過程，編集の意図および出版当時の精神史・文化史的背景を明らかにする。2）シュタルダー編方言辞典にみられる言語思想とヘルダーのものとの関連性を明らかにするため，シュタルダーに共通するヘルダーの言語思想を，ヘルダーの著作より抽出し，比較分析を行う。3）シュタルダーの方言辞典と同時代に編纂されたドイツ語圏における書く方言辞典の序文を分析することで，シュタルダーの方言辞典の言語観の変遷の中でどのような位置付けにあるかを明らかにする。なお，本研究を遂行するにあたり，ヘルダーの思想に代表されるような同時代における言語思想との比較分析を調査することが現時点では優先されるべきと判断したため，スイス方言辞典に関する分析を主な内容とした。

キーワード（研究内容をよく表しているものを３項目以内で記入。）

〔　スイスドイツ語　〕〔　19世紀の言語思想・言語観　〕〔　方言辞典の序文分析　〕

研究成果の概要（図･グラフ等は使用しないこと。）

本研究は，2014 年度立教 SFR の交付を受け，「スイスドイツ語の歴史的推移」について，フランツ・ヨーゼフ・シュタルダー（Franz Joseph Stalder, 1757-1833）によって編纂された全 2 巻からなる方言辞典，『スイス方言辞典の試み―語源に関する注釈，およびスイス方言学の草案も含めて （*Versuch eines Schweizerischen Idiotikon, mit etymologischen Bemerkungen untermischt. Samt einer Skizze einer Schweizerischen Dialektologie*. 1806）』および『スイス方言辞典の試み―語源に関する注釈，および忘却された語と意味の拾遺とともに （*Versuch eines Schweizerischen Idiotikon mit etymologischen Be-merkungen untermischt, samt einer Nachlese vergessener Wörter oder Bedeutungen*. 1812）』を主な分析の軸となる文献として調査した。最初に，シュタルダー編スイス方言辞典（1806, 1812）および 1994 年に改訂出版されたものの序文テクストを分析することにより，方言に対する意識，方言辞典の成立過程，編集の意図および出版の背景を明らかにした。次に，シュタルダーの言語に関する見解には，ヨハン・ゴットフリート・ヘルダー（Johann Gottfried Herder, 1744-1803）のことばが引用されており，その思想が反映されていることからが考えられるため，シュタルダーの言語思想について，ヘルダーの言語思想を分析し，シュタルダーの思想と比較することで，その思想的関連性を明確にした。なお，シュタルダー編方言辞典にみられる思想の背景には, 同時代における言語をめぐる理論の流れとして, ヘルダーだけでなく, ボードマー（Johann Jakob Bodmer, 1698-1783），ブライティンガー（Johann Jakob Breitinger, 1701-1776），シュレーゲル（Carl Wilhelm Friedrich von Schlegel, 1772-1829）などによる考察との関連が推測されるが，本研究においては，方言そのものを高く評価しているヘルダーの思想に注目し，比較分析した。そして，同時代における，ドイツ語圏で出版された他の方言辞典であるホルシュタイン方言辞典（1800-1806），オーストリア方言辞典（1811），バイエルン方言辞典（1827）の序文テクスト等を比較分析することにより，この時代の言語観の中でシュタルダーの方言辞典がどのような位置付けにあるのかを明らかにした。最後に，後期ロマン派思想における言語に関する考察として，ヤーコプ・グリム（Jacob Grimm, 1785-1863）による方言評価にも言及し，まとめとした。

1. シュタルダー編スイス方言辞典の序文分析

シュタルダーの作成したスイス方言辞典の序文を分析することにより，以下のことを明らかになった。まず，第 1 巻の序文から，辞典編纂には多くの教会関係者の協力があったこと，それによりスイスドイツ語圏全地域の方言の収集を可能にしたことである。さらに，フルダやヘルダーのことばを引用しつつ，スイス方言が古い語形を保持していることを強調し，言語的に研究対象として重要視していることが見いだされる。シュタルダーの時代には，まだ音韻法則によって証明されてはいないが，一般的な共通認識であった言語の親戚関係についてシュタルダーも言及している。

シュタルダーは，辞典制作の目的および意図として，まずスイス方言辞典と方言学を区別することを述べている。辞典は，語彙そのものに焦点を当て，方言学は音韻，統語などの要素に主眼を置く，と記している。それは，シュタルダーが 1819 年に方言学に関する著作を出版していることからも明らかである。また，シュタルダーは，方言の意味を明確に伝えるために様々な地域の方言の慣用句や例文を記述し，ドイツ語の正書法を用いて注釈している。さらに，語源に関する歴史的背景を示すために，歴史家の著作やヨシュア・マーラーの独羅辞典を参考にしている。そして，辞典の対象者として，ドイツ人も含めたドイツ語読者が想定されていることを明らかにした。

第 2 巻の序文からは，主に，辞典編纂をより完全なものにしたいというシュタルダーの強い思いと，また第 1 巻と同様に，ドイツ人を辞典の対象者として考慮していることが見いだされた。また，シュタルダーの次作となる方言学に関する著作が，フランスの省からの依頼であること，および引用されたフランス内務大臣の書簡の内容から，シュタルダーの取り組みがフランスでも評価されていたと言える。

改訂出版されたスイス方言辞典の序文には，シュタルダーが生前に第 2 版を出版できないことを予測させる，当時の時代背景について述べられている。1830 年のフランス 7 月革命の余波はスイスにも及び，出版業界においても困窮していたことが明らかになった。また，改訂内容として，トリスタンやニベルンゲンの詩などのテクストを用例に加えていることから，シュタルダーが，スイス方言と古高ドイツ語および中高ドイツ語との関連性を見出していることがうかがえる。そして，シュタルダーの方言辞典初版は，ドイツおよびオーストリアにおいても，多く手に取られ，高い評価を受け，また有益であったことが見出された。

研究成果の概要　つづき

2.　シュタルダー編スイス方言辞典にみられるヘルダーの言語思想

シュタルダー編方言辞典における言語思想と，ヘルダーの言語思想との関連性を明らかにした。スイス方言に関する言語的見解に関して，シュタルダーの見解は次の点においてヘルダーのものと共通していることがわかった。まず，スイス方言には，古いドイツ語の素朴さに忠実であり，ドイツ語書きことばにおいて失われてしまった古いドイツ語のことばが保持されている点において，シュタルダーはヘルダーの見解を継承している。方言評価に関しては，ヘルダーは，言語は方言において豊かであるとし，方言作家を国民の宝と述べており，方言に祖先の古いドイツ語の美しさが残っているために高く評価している。同様にシュタルダーも方言は大きな財産であると述べ，方言が真にドイツ的な表現であるという理由で，方言の価値を見出している。この点において，ヘルダーは，方言作家の紡ぐ文章における方言は，自分たちの言語から生まれたものとしており，シュタルダーがヘルダーの方言評価を受け継いでいるといえる。そして，言語思想においても，シュタルダーにはヘルダーの影響がみられる。ヘルダーは，言語と民謡の関係性について説いており，民謡は，その土地の言語の宝であり，歌を通して言語を維持し，後世に伝えてきたと述べている。シュタルダーにおいても，スイスの古いことばは民謡の中に残っているとし，方言を，民謡を通して紹介することを試みていることから，シュタルダーの言語思想は，ヘルダーの言語思想の流れを受け継いでいると考えられる。

3.　同時代におけるドイツ語圏方言辞典との比較分析

シュタルダーと同時代のドイツ語圏における方言辞典との比較分析を行うにあたり，方言学への学術的な取り組みがはじまった 1800 年以降に編纂された辞典を調査対象とし，それぞれ，ホルシュタイン方言辞典，オーストリア方言辞典およびバイエルン方言辞典の序文等を分析，比較することにより次のことを見出した。ホルシュタイン方言辞典においては，ホルシュタイン方言を書きことばとして高めることを目的としている。民族の精神は言語から発展し，民衆を特徴付けるものは言語であるというヴィーラントのことばを引用していることから，その言語観がうかがえる。この民族と言語の関係性についてはヘルダーの思想とも共通しているといえる。オーストリア方言辞典には，ヘルダーの言語思想の流れを受け継ぐような言語観に関する内容は明記されていない。だがゾンライトナーは，自身の民謡収集の活動から，ヘルダーの言語思想のひとつである民謡と言語の関係について，その重要性を認識していたと思われる。バイエルン方言辞典においては，次の点においてヘルダーの言語観との共通点を見出した。この辞典は，語幹による語彙の整理を行うなど，言語愛国主義の伝統の流れを汲んでいることからも，方言の中にドイツ語の古さや起源をみており，ヘルダーの言語観を継承していると思われる。さらに，グリムが，シュタルダーおよびシュメラーの辞典編纂の取り組みを高く評価していることから，両辞典ともに，ヘルダーの系統の言語観が反映され，グリムの言語思想と共通した系統であると考えられる。このように，方言学への学術的な取り組みがはじまった 1800 年初期に編纂が行われたドイツ語圏における方言辞典には，ヘルダーの言語思想や方言評価が少なからず反映されていることを明らかにした。そして，1800 年以降に編纂された複数の方言辞典の中で，ヘルダーのもつ言語観，方言評価，言語思想が最も明確に示されている方言辞典は，シュタルダーのスイス方言辞典であることを明らかにした。

まとめ

グリムは，自身のドイツ語辞典の序文において，スイス方言について次のように述べている。スイス方言は単なる方言を越えるものであり，書きことばにすることを放棄したことがないとしている：「これ［スイス方言］は，単なる方言を越えるものである，それは既に民衆の自由からうかがい知れることであるように。スイス方言は，未だ一度も，独立して歩むという権利，そして書きことばにすることを放棄したことがない，いうまでもなくそれ以外のドイツから，より強大に，書きことばへと普及しているのだが（diese ist mehr als bloszer dialect, wie es schon aus der freiheit des volks sich begreifen läszt; noch nie hat sie sich des rechtes begeben selbständig aufzutreten und in die schriftsprache einzuflieszen, die freilich aus dem übrigen Deutschland mächtiger zu ihr vordringt.）」。この指摘は，シュタルダーのスイス方言辞典編纂という取り組みにも表れていると言える。ヘルダーの言語思想を受け継いだ方言辞典を編纂することにより，ドイツ語には失われてしまった語を保持しているスイス方言の重要性を説き，その価値を大きく見出している。シュタルダーの方言辞典は，とはいえ，グリムをはじめドイツ語圏でも広く評価されていることからも，19 世紀におけるドイツ・ロマン派思想において，このシュタルダーのスイス方言辞典およびスイス方言の存在は，ドイツ語の地位を高めることへの，重要な役割を果たしたのではないかと考えられる。さらに，方言への肯定的な意識を育むことにも貢献したと考えられる。

研究発表（研究によって得られた研究経過・成果を発表した①～④について、該当するものを記入してください。該当するものが多い場合は主要なものを抜粋してください。）

①雑誌論文（著者名、論文標題、雑誌名、巻号、発行年、ページ）
②図書（著者名、出版社、書名、発行年、総ページ数）
③シンポジウム・公開講演会等の開催（会名、開催日、開催場所）
④その他（学会発表、研究報告書の印刷等）

①雑誌論文

宮島章子「19 世紀の言語思想からみたシュタルダー編スイス方言語彙辞典の位置付け」

〔立教大学ドイツ文学専攻論文集『WORT』第 36 号（2015）1-26 頁〕

④その他

1)「スイスドイツ語の歴史的推移――チューリヒ聖書の比較分析からみるスイス方言の変遷――」

〔立教大学文学研究科ドイツ文学専攻春学期コロキウム　2014 年 7 月 4 日〕

2)「シュタルダー編方言辞典の言語思想背景――ヘルダーの思想とドイツ語圏における各方言辞典の比較分析から――」

〔立教大学文学研究科ドイツ文学専攻秋学期コロキウム　2014 年 11 月 14 日〕

3)「シュタルダー編スイス方言辞典（1806，1812）の思想背景――方言辞典の序文分析およびヘルダーの言語思想との比較から――」

〔2014 年度立教大学大学院提出修士論文〕

4) 日本独文学会　第 43 回語学ゼミナール　発表予定